

ク(仮称)を開業する。投資額は約75億円。着工は6月下旬。海外3店舗目の宿泊主体型アップグレードホテルで、タイ王国バンコク都クロイントウーイサブ地区に建設する。敷地面積は1696㎡。地上27階地下2階建てで、延べ床面積は1万6739㎡。地下2階は機械室で、地下1階にバグゲオフィス、1階がエントランス、2階にレストラン、3階にフロント、4階に機械室、5〜26階は客室、最上階はプールを備えたスカイバー、ジムで構成する。客室は267室で、内訳はダブル127室、ツイン131室、エグゼクティブ9室。

価格帯などの詳細は、決まり次第発表する。さらに日本語対応可能なスタッフを配置し、サービスなど従来の「ソラリア」ブランド品質はそのままに、「微笑みの国タイ」と言われる穏やかな風土とあたたかみのあるホスピタリティーを融合させる。運営は同社が出資する現地法人のNNR Hotels International (Thailand) Co.,Ltd.が担う。

西鉄では「日本からのお客さまだけでなく、タイ国内外か

らのお客さまにも快適に過ごしてもらえようサービスを提供していき。今後も国内外への展開を積極的に推進し、同社のブランドの価値やイメージ向上、収益基盤の拡大を努めていきたい」と話している。

熊本駅前にカプセルホテル

九州レップ

不動産業の九州レップ(株)(福岡市中央区渡辺通4丁目、白砂光規社長)のグループ会社が7月1日、熊本市西区春日1丁目目の商業施設「くまもと森都心プラザ」1階にカプセルホテル「ホ



共用部に併設したバーカウンター。スタッフとの交流を重視し、地元情報などを積極的に発信していく

テルザゲートクマモト」をオープンした。

同社が区分所有する入居テナントが2016年12月に退去したのに伴い、駅前再開発の将来性に着目し、これまで手掛けてきた大型コンセプトシェアハウスのノウハウを生かしてホテル事業をスタートするもの。運営は同月に立ち上げたコミュニティラボ(株)(同所、同社長)が担う。

ホテルは991㎡のフロアに65室、114ベッドを置く。宿泊スペースは個室(48室)、2人部屋(8)、4人部屋(5)、6人部屋(2)、10人部屋(1)で構成し、バーやマッサージサービスなどで共有スペースの充実を図っている。平日の利用料金は個室3400円(税別)、相部屋2900円(同)。ビジネスユースを中心に平均稼働率85%を目指す。スタッフは地元採用の15人。

白砂社長は「設備はカプセルホテル型だが、ビジネスホテル同様の立地の良さ、スタッフとの交流に重点を置くゲストハウスの良さを取り入れたハイブリッド型ホテル。ホテルでの新

しい過ごし方を提案していきたい」と話している。

九州レップは2010年5月設立。資本金1000万円。従業員6人。コミュニティラボは資本金300万円。従業員16人。

福岡市で民泊活用の交流事業

東京のAirbnb Japan

米民泊仲介大手のAirbnb(エアビーアンドビー)の日本法人Airbnb Japan(株)(東京都、田邊泰之社長)は5月19日、福岡を拠点に九州で部屋を貸し出す民泊ホストと宿泊者、地域などとの交流を図る「ホームシェアリングラボ」事業を開始すると発表した。

同社が地域と連携したラボを設立するのは国内初で、福岡への移住サポートや福岡のコミュニティ情報発信を手掛ける「福岡移住計画」(運営は(株)スマートデザインアソシエーション、須賀大介社長)を事務局とする。ホームシェアリングラボでは、九州エリアを対象に定例会・イベントを通じて情報共有やマッチングを図る。福岡移住計画が、こ